

5-1 地形

滋賀県の地形の特徴は、盆地とそれを取り囲む山地部で構成され、行政域は琵琶湖の集水域とほぼ一致します。盆地は南北約50km、東西約30kmで、中央部に琵琶湖、そして流入する河川によって形成された沖積平野が発達しています。

1. 滋賀県の地形の特徴

琵琶湖とその周辺の平野部は構造運動による沈降が卓越しますが、盆地周辺部では段丘や古琵琶湖層群で構成される台地や丘陵が発達しています。また、構造運動による隆起によって、盆地の東縁辺部では伊吹山地や鈴鹿山脈が、そして、西縁には比良山地や比叡山などが南北に展開しています。つまり、日本最大、そして最古の琵琶湖が他の湖沼と違い長期間存在したのは、上記のような中央部での激しい沈降運動によるものと考えられます。以下には、滋賀県内でいくつかの特徴的な地形を紹介します。

2. 滋賀県の特徴的な各地形単位

(1) 山地

滋賀県の山地は、中生代までに形成されたと考えられる丹波層群、中生代末の火山岩類（湖東流紋岩など）、新生代の鮎河層群などの固結した堆積物などで構成される15度以上の傾斜をもつ斜面の集合体で構成されています。多くの地点では流水や重力によって浸食され、平野部への土砂供給源でもあることから、急斜面は崩壊地と呼ばれる場所となっています。

(2) 丘陵・段丘

山地と平野との間に分布する地形で、丘陵は砂礫や粘土、砂などで構成される古琵琶湖層群で構成され、段丘は主に砂礫層で構成されます。両者とも未固結の堆積物で構成されており、支流的河川によって浸食を受け、堅田丘陵などは地すべり地として知られていました。近年では都市部に近接する地点では宅地開発などによって大規模な人工地形が形成されています。

(3) 扇状地

山地から平野にいたる間に、河川によって形成された円錐状の地形で、粗粒な砂礫で構成されます。扇状地上には多くの網状流の河道跡が確認され地形形成時の活発な洪水が想定されています。

(4) 氾濫原

沖積平野における河川の氾濫によって形成された平坦な地形で、主に粘土や細粒な堆積物で構成されます。県内最大河川である野洲川の下流域に代表され

ます。県内最大河川である野洲川の下流域に代表されるように、この平坦地は主に水田として利用されています。

(5) 三角州

河川から琵琶湖に流入する時の河口部に形成される地形で、琵琶湖の沿岸流や河川による土砂の堆積作用によって形成されています。琵琶湖の水位上昇や洪水によって、災害を受けた場所も多くあります。

(6) 砂州・砂堆・浜堤

琵琶湖の沿岸流や河川の堆積物によって形成された微高地で、沿岸部の現集落が立地しています。

(7) 内湖・干拓地

内湖は琵琶湖の沿岸流や水位変化、堆積変化、さらには構造運動等の諸要素が関係して形成された地形です。しかし、この内湖は戦中や戦後に干拓が行われ、多くが失われました。

(8) 天井川

堤防によって囲まれた河床が周囲の低地（堤内地）よりも高い地形です。主に粗粒な砂礫で構成され、上流の膨大な土砂供給によって形成された地形で、草津川が全国的に知られています。最近の研究で、土砂の供給地である山地の人為的荒廃によって、中世頃から天井川化してきたことが判明しつつあります。

(9) 活断層

将来も地震を発生させる可能性のある断層です。阪神・淡路大震災以降、県内でも活断層の活動度調査が実施され、琵琶湖西岸断層系の活動度の高さが明らかになりました。

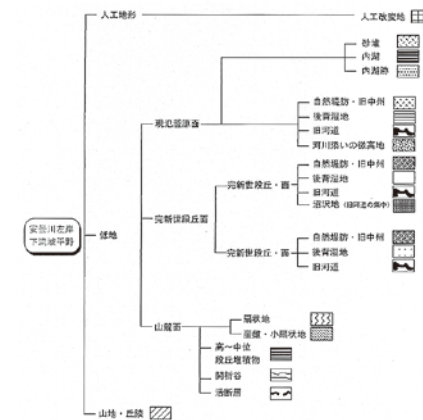


図5-1-1 安曇川左岸下流域平野の発達史的な地形分類予察図とその凡例(宮本、2004を一部改変)

琵琶湖博物館 宮本 真二